



日本顕微鏡歯科学会

第9回 歯科衛生士セミナー

歯科衛生士委員会 委員長：櫻井善明

2026年11月29日(日)
スペースアルファ三宮

物理学から紐解く精密なミラーテクニックの基本

立川優奈

静岡県 医療法人社団ワンアンドオンリー 麻生歯科クリニック

歯科臨床においてデンタルミラーは不可欠な器具であるが、日常的に使用されるがゆえに「視認できている」という主観的判断に留まっているケースは少なくない。特に視野が限定されるマイクロスコープ下においては、肉眼下以上に正確なミラーテクニックが要求される。本講演では、確実なミラー操作の習得を目的として物理学的アプローチによる基礎理論と実践手法を概説する。

まず、ミラー視の基礎として「光の反射」の物理学的原理を解説し、肉眼臨床を示した上で、マイクロスコープ下において課題となる視線・光軸・鏡面の関係性を整理し、適切なミラー角度について解説する。

原理・原則に基づく客観的なミラー操作を理解することは、直感に頼らない安定した視認性の獲得につながり、臨床パフォーマンス向上の第一歩となる。

独学で始めたマイクロスコープ導入初期に直面した課題 ～ 視野の確保と口腔内全顎診査への応用 ～

森野ゆかり

DUO デンタルクリニック

近年、歯科衛生士によるマイクロスコープの活用が広がっている。
導入した当初は自己流で施術を行っていたため、超音波スケーラーの使用時に水滴がミラー面へ付着し、安定した視野を確保できないことが大きな課題であった。
マイクロスコープセミナー受講後、ミラーを切縁から適切に離すことや挿入角度を学んだことで、水滴の付着を抑えながら施術できるようになった。
また、従来は高倍率ルーペによる口腔内診査と一眼レフカメラで記録を行っていたが、マイクロスコープによる口腔内全顎診査を取り入れたことで、その場で静止画や動画を記録し患者説明に活用できるようになった。
本発表では、独学時とセミナー受講後の臨床を比較し、その変化を報告する。

ミラーテクニックとポジショニングから考えるミラーサイズを選択

青井 集子

名古屋駅前デンタルオフィス

本セミナーのテーマは「ミラーテクニックとポジショニング」である。本発表では、そのテーマを踏まえ、診療で日常的に使用する口腔内ミラーに焦点を当てる。

歯科衛生士が使用するミラーは、基本セットに含まれるサイズをそのまま使用していることが多い。しかし、ミラートップのサイズを変更することで、術野の見え方や口腔内での操作性は変化する可能性がある。

そこで本発表では、ミラーサイズの違いによる視野や操作性について、部位や症例ごとに比較・検討し、それぞれの特徴や使い分けについて考察する。日常臨床において、より快適で効率的な診療を行うためのヒントを、参加者の皆様と共有したい。

ミラーテクニックとポジショニングを再考する

ー 二人の歯科衛生士が導く「目的・観察・思考」ー 松野の視点

松野 祥

香川大学前はこざき歯科医院

マイクロスコープを用いた診療では、ミラーテクニックやポジショニングは重要な技術である。しかし、私たちはその前に「何を見たいのか」「患者さんに何を伝え、どうなってほしいのか」という目的を明確にすることが重要だと考えている。

目的が定まることで観察するポイントが変わり、得られた情報を思考することで、最適なミラーテクニックやポジショニングが選択される。

本講演では、患者ファーストの視点から口腔内全体を捉え、患者さんの背景やリスクを踏まえながら観察する考え方を共有する。

患者さんにとって何が最善かを常に考え、「目的・観察・思考」を軸に診療を組み立てることで、日々の臨床に活かせる実践的な視点を提案する。

ミラーテクニックとポジショニングを再考する

ー 二人の歯科衛生士が導く「目的・観察・思考」ー 加藤の視点

加藤 絢子

ナカク千代田3丁目歯科クリニック

マイクロスコープを用いた診療では、ミラーテクニックやポジショニングは重要な技術である。しかし、私たちはその前に「何を見たいのか」「患者さんに何を伝え、どうなってほしいのか」という目的を明確にすることが重要だと考えている。目的が定まることで観察するポイントが変わり、得られた情報を思考することで、最適なミラーテクニックやポジショニングが選択される。

本講演では、精密に観察する視点から、目的に応じた観察の重要性を共有する。拡大視野で得られた情報を思考し、臨床へつなげるプロセスを通して、「目的・観察・思考」を軸とした診療の考え方を提案し、日々の診療に活かせる実践的なアプローチを紹介する。

右上臼歯部を得意部位へ導く私のアプローチ①

加藤 あゆ美

ノアデンタルクリニック・ホワイトエッセンス

顕微鏡歯科学会におけるこれまでのアンケート調査の結果、マイクロスコープ使用経験のある歯科衛生士においては、右上および左下臼歯部に苦手意識を持つ者が多いことが示された。そこで本セミナーでは、顕微鏡歯科学会認定指導歯科衛生士4名が、それぞれの苦手部位に焦点を当てた実践的なデモンストレーションを企画した。私は右上臼歯部を担当し、各種マイクロスコープの特性に応じて、術者姿勢、患者ポジショニング、ミラーテクニックを活用した安定した術野の確保について解説する。右上臼歯部における視野確保と操作性向上、さらに術者負担の軽減のための具体的な工夫を提示し、マイクロスコープを活用する歯科衛生士の技術向上と苦手部位克服の一助となることを目的とする。

右上臼歯部を得意部位へ導く私のアプローチ②

小宮 純子

うめむら歯科医院

拡大鏡からマイクロスコープへとステップアップするプロセスにおいて、高倍率な視野特有の「見えない」という操作性の壁に直面し、苦慮するケースは少なくない。本講演では、その高倍率な視野を存分に活かせるよう、日々の臨床で特に苦手意識を持たれやすい「右上」の部位に焦点を当てる。無理な姿勢のまま手技を続けることは、視野のロスだけでなく術者の身体的負担にもつながる。そこで、十分な視野を確保するためのポジショニングとミラーテクニックを再構築し、解決の糸口を見出していく。確実なアプローチを実現するための実践的な勘所を紐解き、日々の臨床に直結する知見を参加者の皆様と共有したい。

左下臼歯部における明視野獲得のポイント①

岡 由美

フリーランス

マイクロスコープを用いて診療をする上でミラーテクニックを必要とする部位は多々ある。

アンケートを取った結果多くの歯科衛生士が右上あるいは左下臼歯部のミラー視が難しいという意見が上がった。

そこで今回はJAMD認定指導歯科衛生士4人で、2班に分かれて実際にどのようにすればこの問題が解決できるのか実機を用いてデモンストレーションを行いポジショニングとミラーテクニックについて紐解いてみる。

私は左下臼歯部について解説する。下顎を施術する上で問題になるのが舌と唾液に悩まされることが多々あるがミラーの把持の仕方や舌の排除、排唾管の使用などいくつかのポイントを絞って明日からでもすぐ臨床に活かすことができる内容を伝える。

左下臼歯部における明視野獲得のポイント②

小田亜里奈

医療法人昭栄会はたなか歯科クリニック

顕微鏡視下における安定した明視野の確保には、ミラーテクニックと術者・患者・顕微鏡の適切なポジショニングが不可欠である。昨年度の DH セミナーでのアンケートでは、左下臼歯部を苦手とする回答が多かった。特に舌側・最遠心では、舌の動きや唾液によりミラー視が妨げられ、舌側に傾斜した歯面への器具操作も難しい。本講演では、頬側・舌側・隣接面、特に最遠心部へのアプローチを実演し、術者位置、患者頭位、顕微鏡の位置、ミラーの挿入位置と角度、舌の排除および唾液のコントロールを具体的に示す。苦手部位を単に見えない部位とせず、阻害要因を分析して明視野を構築し、安定した観察と再現性のある器具操作につなげる手順を共有する。